

我究図② 横山博己さん(大学院休学中・水たばこ店経営)

Being : 自分の欲求に素直な人間/やりたいことに挑戦する人間

Having : 一生付き合える仲間/周りの“やりたい”を応援できるほどの経済力/少しの安らぎ時間(何もしない時間)

Giving : 誰もがその人らしい感情あふれる世の中/環境

—兄の会社のVision—
“美味しい・楽しい・気持ちいい”
を最大化する

・新しい事業への挑戦

ex: サウナ、映画、ホテルなど
「美味しい、楽しい、気持ちいい」を
体感できる商業施設を造りたい

シーシャ世界大会への
参加を検討!

・他ジャンルのメディアへの挑戦—インフルエンス力をつける

・教育、コンサル業ほか他業種とのコラボなどへの挑戦

・「東京」エリアで一番に
都内400店舗のトップを目指す(知名度)

コロナ禍によって人と人の出会いの数が激減。出会いの場を創出すべく、当時供給が追いついていなかった「シーシャカフェ&バー」を出店する

・「高円寺」エリアで一番に
老舗を追い抜くことを目指す

現在 大学院休学 : 「店舗経営への挑戦」大好きな仲間たちとお店を開く

—人生ビジョンの確立—

「大好きな仲間たちと大きな挑戦を行い、成功することで有名になり、感情に素直に生きる人を増やす」

会社に属するのはあくまでも手段だ。“誰もがその人らしい感情あふれる世の中”にするために、
まずは自分が自分の感情のままに挑戦しよう。

他人の目を気にせず、自分の言いたいこと、やりたいことを感情のまま行動できる人間に

「第一志望企業のサマーインターンに挑戦」

本気で3日間のインターンに取り組むものの、
自分のやりたいこと(Giving)が実現できないことを知る

自分を変えてくれたサークルの組織風土に着目。組織や風土をつくる仕事に興味を持ち「組織コンサル」に業種を絞る

大学院1年 : 「就活への挑戦」本気で就活と向き合う仲間を求めて我究館への参加を決意

★★★ **大学3年 :** 「自分改革への挑戦」所属したよさこいサークルで、あるイベントの統括に立候補、総勢200人の前で自分の過去、悩みを本音で話し、当時の自分の夢である「一生付き合える仲間をつくりたい」ことを伝える

⇒ イベント終了後、同期から言われた「お前は俺の一生の仲間だよ」という言葉で夢を叶えたことを実感。
以来、自分の感情に素直に生きるようになる。

★ **大学1年 :** 「親友0人事件」人生初の帰省で、遊びに誘ってくれる友人がいないことに気付く

⇒ 原因は二つ ①人から嫌われることを恐れ“本音の対話”をしてこなかったから
②自分の弱み、見せたくない所を隠してきたから

高校 : 「ニキビ事件」高校でもリーダー役を任されることが多かったため、思春期の悩み“ニキビ”に苦しむ

⇒ 人から(容姿的に)嫌われることを恐れ、言行だけでなく他人の目も気にするようになる

中学校 : 「野球部主将・生徒会副会長に推薦される事件」利他的行動を心掛けた結果、リーダー役を任される

⇒ 自分の言行に責任を持つようになり、自分の感情ではなくチーム目線で物事を考えるようになる。
しかし、部員や他の生徒から嫌われることを恐れ、本音でぶつかることができなかった

小学校 : 「1:5のケンカ事件」わがままな性格だったため他者と対立することが多く、初めて一対大勢のけんかを経験

⇒ この事件を機に、自己中心的な性格から利他的な性格へ(嫌われることを恐れる)

1997年 : 男4兄弟の末っ子として爆誕(in福岡) ⇒ “ジャイアン(ドラえもん)”のような性格で爆誕